



Lilly Diabetes

Lilly

日本イーライリリー株式会社
www.lilly.co.jp

糖尿病 Newsletter vol.1

7月発行

プレスセミナー「糖尿病治療と医療費負担の現状 -インスリン治療中の2,650名の患者調査結果から-」開催
治療費の負担の大きさを不満に思っている患者さんの姿が明らかに

日本イーライリリー株式会社は、去る6月19日（水）、糖尿病治療を受ける患者さんの医療費負担について考えるプレスセミナーを実施しました。はじめに当社 糖尿病・成長ホルモン事業本部長 網場一成から「糖尿病治療のベストパートナーとして」と題し、イーライリリーの糖尿病領域における基本姿勢と歩み、現在の研究開発状況等を紹介した後、東邦大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌学教授の弘世(ひろせ)貴久先生より、糖尿病とその合併症、またインスリン治療について解説をいただきました。最後に、ご自身も糖尿病治療を受けている経済アナリストの森永卓郎氏をお招きし、弘世先生と森永氏のそれぞれの見解も伺いながら、インスリン療法を受けている糖尿病患者さん2,650名の治療に関する実態調査の結果を発表しました。

<インスリン療法を行う糖尿病患者さんの実態調査 調査結果>

1. インスリン療法を受けている患者さんの半数（49.5%）は、現在受けている治療そのものには満足。治療に「満足していない」、「全く満足していない」と回答した患者さんは1割（13.5%）。
2. ただ医療費に関しては、約8割の患者さん（76.9%）が「医療費が高い」と不満を感じている。
3. 糖尿病治療にかかる医療費の平均月額は、「10,000～15,000円未満」という回答が最多（38.6%）。
4. 糖尿病の医療費負担のために4割（42.7%）の患者さんが何かしらの費用を抑えている。切り詰めている費用の1位は「趣味・娯楽費」（82.0%）。中には「食費・生活費」（45.4%）を切り詰めている人も。
5. インスリン療法開始の際は患者さんの7割（68.5%）が「主治医が勧める製剤に決まった」と回答し、2割（22.1%）は「選択肢が提示され、主治医に勧められた製剤に決まった」と回答。つまり、9割の患者さんは主治医の勧めるインスリン製剤を使用。
6. インスリンも製剤によって価格に違いがあることは7割近く（66.5%）の患者さんは知らない。
7. 同等の効果でより安価なインスリン製剤を主治医の先生から勧められたら、9割以上（94.7%）の患者さんが製剤を切り替えたいと思っている。

※調査のより詳細な内容は、以下の糖尿病用ネットワークのHPでもご覧いただけます。

URL : <http://www.dm-net.co.jp/enq/002/>

患者さんの治療費の負担感について、経済アナリストの森永卓郎氏は「糖尿病患者にとって治療費は毎月の固定費。治療はずっと継続するので治療費がなくなるということではなく、合併症などになってしまったらさらに多くの治療費が必要になる。日本の平均収入ではこの固定費はかなり負担になっていることは間違いない。患者さんは『お医者さんのいう事だから』と、自分が処方されている薬に疑問を持たないと思う。僕自身、自分が処方されている薬が一番僕の症状には合っているのだらうと思っているし、治療法について突っ込んだ質問をすることをためらいがちだ

と思うが、自分が置かれている状況を正直に医師に伝えることが大切だ。」と、患者の立場で意見を述べました。これに対し弘世先生も「ここまで治療費の負担が深刻とは想像していなかった。糖尿病とうまく付き合えるよう、医師としてきちんと治療選択肢を提示し、話し合っていくことが非常に重要だと感じた。遠慮せずに相談してほしい」と述べました。

また、同等の効果のより安価なインスリン製剤への切り替えについては、弘世先生は「インスリン製剤にはジェネリックはないが、『インスリンをジェネリックにしてください』と言う患者さんもいる。これらの患者さんは医療費を気にしているのだとわかるため、価格が違う薬剤があるという話をする。しかし『医療費をもっと安くできないか』と言われることはほとんどない。ほとんどの患者さんは薬剤の価格差を知らないし、知っていたとしても患者さんの立場としては主治医の勧めを断ってはいけなないと考えてしまうからだ」と臨床現場の実情を紹介しました。

そのうえで弘世先生は「患者さんは病院だけではなく、食事や運動療法といった毎日の生活が本番。治療は主治医に丸投げにせず、能動的に取り組んでもらいたい。わからないことや要望があれば主治医や医療スタッフにどんどん聞いてほしい。その積み重ねが血糖コントロール改善、合併症抑制に必ずつながっていくと思う」と述べ、治療に際しては患者側からの主治医の先生への相談がより良い医療、よりコストベネフィットのある治療につながるとの結論にいたりました。

次号 vol.2 は、患者さんの医療費負担感の実態について掘り下げる予定です。発行は7月末を予定しています。このニュースレターに関するお問い合わせは以下にお願いいたします。

発行：日本イーライリリー株式会社

広報代理：MSL Japan（担当：磯崎、尾崎、工藤）

TEL: 03-5719-8901 Email: lilly-DMG@msljapan.com

神戸本社：〒651-0086 神戸市中央区磯上通 7-1-5 三宮プラザビル

東京支社：〒107-0052 東京都港区赤坂 4-15-1 赤坂ガーデンシティ 11F



(左) 経済アナリスト 森永卓郎氏 (右) 東邦大学 弘世貴久先生